

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	20-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Epidemiology of head and neck cancers : an update 頭頸部がんの疫学 : 最新情報		
執筆者		
Aupérin A.		
掲載誌		
Curr Opin Oncol. 2020 May;32(3):178-186. DOI: 10.1097/CCO.0000000000000629.		
キーワード		PMID
アルコール、栄養、頭頸部がん、HPV ワクチン、たばこ		32209823
要 旨		
<p>本レビューは、頭頸部がん(HNC)の疫学的知見のアップデートを目的とした。</p> <p>1990年から2017年にかけて、世界全体としては上咽頭がんの罹患率は減少したが(年率変動(EAPC):-1.52%,95%信頼区間(CI):-1.70,-1.34)、口腔・下咽頭がん(EAPC:0.62%,95%CI:0.54,0.71)および口唇口腔がん(EAPC:0.26%,95%CI:0.16,0.37)は増加した。性差は、喉頭がんでは5.75倍、その他のHNCにおいても約1.7倍と女性に比べ男性の罹患率が顕著に高い。地域差では、南アジアのHNC罹患率が最も高く、ヨーロッパ、北米、オーストラリアが続く。</p> <p>ヒトパピローマウイルス(HPV)に起因するHNC罹患率は、1970年以降増加しており、世界の地域や喫煙率に大きく依存し、特に高所得国で増加している。米国では、HPVに起因する口咽頭がんが最も頻度が高く、子宮頸がんを上回っている。</p> <p>頭頸部がんの危険因子について、米国、ヨーロッパ、南米、アジアでの疫学研究からプールされたデータを活用した国際頭頸部がんコンソーシアム(INHANCE)による研究では、たばことアルコールが依然として主な危険因子であった。喫煙量と喫煙期間の最も高いレベルにおいて、非喫煙者に対する口腔・咽頭がんのオッズ比は10、喉頭がんは40であった。たばことアルコールの共同曝露は、乗算的な相乗効果よりも大きな影響をもたらし、20年間以上の禁酒は、非飲酒者と同等の発症リスクまで低下させることができる。職業では、飲食業、清掃業、精肉加工業、紡績業、金属加工業、搬送機器オペレーターなどの多くの職業がHNCリスクの増加と関連している。食事では、果物や野菜の摂取はHNCに対する予防効果が明らかとなっている。</p> <p>これらのことからHNC罹患率を低下させるための公共政策では、たばことアルコール対策を基本とし、HPVワクチンの普及、発がん性物質の曝露からの労働者の保護、より良い栄養摂取に関する知識の普及、果物や野菜の摂取しやすい環境を整えることが求められる。</p>		